

労災かわらばん

—新春号—

Vol.42 発行日/平成27年2月2日 編集/釧路労災病院新聞局

新年の辞

釧路労災病院院長

野々村 克也



新年明けましておめでとうございませう。新たな年を迎え、皆さん一人ひとりが志も新たに、お正月を健やかに過ごさしめたいと存じます。

昨年は、9月下旬の57名の犠牲者を出した御嶽山の噴火に代表される火山活動の活発化が指摘され、本道でも十勝岳、雌阿寒岳の警戒レベルが注目されました。一方、大型台風、大雨により8月下旬に土砂災害をもたらした。広島市74名、礼文島2名の尊い命が失われました。年末には爆弾低気圧が本道に上陸し、根室市では最大瞬間風速39.9メートル、高潮により広範囲の浸水・冠水被害が出ました。これらの想像を超えた自然災害から、如何に人々の命・健康を守るかは我々医療従事者に与えられた重いテーマでもあります。

医療の分野では西アフリカで致死率の高いエボラ熱が猛威を振るい、現在感染者は2万人を超え、死者も8千に上っています。本邦でも対岸の火事と云っては、海外からの持ち込みを如何に阻止するか、戦々恐々としている様が見取れます。折しも病原性は弱いものの海外から持ち込んだと思われるデング熱が渡航歴のない代々木公園を訪れた人々に発症するなどの報告があり、制御の困難さを感じさせました。いずれも、(鳥)インフルエンザが定期的に(?)空を飛んでくるのに加え、グローバルの波にのり、空を飛ぶ大量の人々の動きが関係

しているのは間違いありません。いずれにしても、ヒトと病原微生物との戦い・共存は我々医療従事者にとって有史以来の永遠のテーマでもあります。

我々に直結する医療情勢の変化では24年度開始より消費税のアップ、診療報酬の改定、70歳以上の方々の医療費自己負担増などがスタートし、患者さん・病院双方にとって必ずしも好ましい体制とは云えない事態が生じております。さらに、6月には「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関連法律の整備等に関する法律」が施行され、これに基づき10月から「病床機能報告制度」が開始され、益々加速化する少子高齢化、地域の過疎化に対応すべく、行政レベルでの取り組みがスタートしております。限られた財源で個々の地域の特徴を生かし、効率よく、かつ十分な医療機能確保するかが我々に課せられたテーマであると認識しております。本院は釧路地区唯一の「地域医療支援病院」として本年3月に1階エントランスホールに「地域医療連携総合センター」を設置し、患者さんや医療機関の皆さんに見える形で医療サービスを行います。また、今後も地元医師会・各地の公的病院との連携をより一層強化し、シームレスな枠組みでの医療を展開することであらゆる疾病に対して何処にあっても偏りのない医療を提供できるようにその体制作りを腐心・尽力していきたいと思っております。

今年も我が釧路労災病院は、釧路を、労災病院を愛して止まない職員みんなが患者さんと一緒になって病に立ち向かい、道東地区の医療に貢献することを目標に進んでいく所存です。これからもより一層、ご支援・ご愛顧下さいますようお願い申し上げます。

おだやかな羊のように

副院長 宮城島 拓人



新年、明けましておめでとうございませう。

昨年の午(うま)年は、関東のどか雪にはじまり、未曾有の大型台風や、爆弾低気圧に日本列島が大いに揺さぶられ、さらには御嶽山の爆発などの天変地異が各地でおこり、世界に目を向けてみるとエボラの脅威に地球が震撼し、イスラム国やらテロやらに憤りを感じているうちに、一年駿馬のごとくあっという間に駆け抜けていきました。今年も羊。

なんとも穏やかに過ぎて欲しいものです。広い草原でひとかたまりにな

2015年度の外科診療について

副院長 小笠原 和宏



釧路労災病院外科は、『がん診療連携拠点病院』の一翼を担う診療科として、とくにがん治療の分野で地域に貢献したいと考えております。診断から治療を一貫して実施するのはもちろん、がんの予防・生活習慣の改善に始まり、早期から緩和ケアを併用することにより癌の治療成績を向上させることを目指します。同時に、労災病院の重要な役割の一つである『勤労者医療』の立場から、スムーズな職場復帰や働きながらの療養など医療と仕事の両立支援にも力を

入れながら、草を食む姿はどこか癒しを誘い、気がついたらいっつのまにか頭残らず放牧犬に誘導されてしまふ人の良さ(羊のよさ)に、笑みがこぼれます。しかし私たち人間は、羊の肉で腹を満たし、羊の毛の衣を纏います。心のみならず衣食を満たしてくれる大切な動物なのです。人間は『衣食足りて礼節を知る』生き物なので、今年も目標は羊を意識してみようと思っております。悠然と歩み、調和を尊び、いたずらな自己顕示はしないが人の心に響く人間。すなわち、走らない、気を急(せ)かない、一人尖らないでいながら、確かな肉と豊かな羊毛(すなわち実績)を生み出す羊男(ひつじおとこ)になりたいと思っております。無理かもしれませんが(笑)。

今年も釧路ろうさい病院は、みなさまを羊毛で暖かく包み込むような居場所作りに励みたいと思っております。

入れて参ります。まず、消化器の分野では、3名の専門医を揃え、腹腔鏡下胃切除ならびに腸切除を推進します。なるべく身体にやさしい手術を心掛け、社会復帰のお手伝いをさせていただきます。当院の消化器内科・腫瘍内科との連携により、進行癌に対しても手術と化学療法・放射線療法の併用により、できるだけだけの治療を提供したいと考えております。常に最新・最先端の医療を提供できるように北海道大学との連携も確立しています。

乳腺の分野では、専門医1名・認定医1名の体制が出来上がり、この春から『乳腺外科』を標榜する予定です。医学的根拠(エビデンス)に基づく診療を基本として患者さんのニーズに合わせた診療を実践します。これに加えて乳腺看護認定看護士が在籍し、患者さんの生活の質を向上させることに貢献したいと考えております。がん治療の分野で地域に貢献したいと考えております。診断から治療を一貫して実施するのはもちろん、がんの予防・生活習慣の改善に始まり、早期から緩和ケアを併用することにより癌の治療成績を向上させることを目指します。同時に、労災病院の重要な役割の一つである『勤労者医療』の立場から、スムーズな職場復帰や働きながらの療養など医療と仕事の両立支援にも力を

日本人の2人に1人が癌になる時代です。がんとつきあわなくてはならなくなった人々への医療介入とケアはさらに大切になります。早期発見はもちろんのこと、残念ながら手術が出来なくなった人々への集学的治療、とくに化学療法は今後ますます増えることでしょう。当院は今後外来化学療法室をさらに拡充・充実し、居心地の良い空間を作る予定です。また、緩和医療の中核ともいえるべき、緩和病棟の設立へ向けて検討してまいります。治療とケアの両輪を最大限回すことで、ひとにやさしいぬくもりのある医療空間を提供するのが、今年の目標になりました。

私も釧路ろうさいの医療スタッフは、みな羊男や羊女になるのです。ご期待ください。そして今年もよろしくようお願い申し上げます。